
パズル

神崎慧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パズル

【Nコード】
N5468H

【作者名】
神崎慧

【あらすじ】
「懸賞って夢があつていいよねえ」「そんなこと思うなら自分で解きなさいよ」そんな一日。

肌寒くなってきた2月。私の通う高校でも美味しいと評判のカフェテリア。

そんなところで本……雑誌とにらめっこしている私は、奇異の目を向けられても文句は言えないだろう。

「お姉ちゃん、まだ？」

向かいの席に座った、私とそっくりな顔をした少女……美佳が、退屈そうに頬杖をつきながら口を開いた。

私はその言葉に、伏せていた顔を上げて、軽く睨むように視線を向ける。

「……そんなにヒマなら、少しは手伝おうとか」

「思わない」

私の言葉を遮って即答する美佳に、私は今日になって何度目か分からないようなため息を吐きながら、こうなった理由を思い出していた。

発端はいつものごとく、美佳の一言だった。

「お姉ちゃん。新しいパズルの雑誌買ってきたから解いて」

この言葉を聞いた私は、ゆっくりと口の中で反芻してから、思わず聞き返していた。

「……一緒に解こう、じゃなくて？」

「うん。ほら、私はただ純粋に懸賞に応募したいだけだから」

「そうじゃなくて。私が、一人で、このパズルを、解くの？」

一言一言を区切ってゆっくりと分かりやすく聞いてみると、美佳は満面の笑みで頷いた。

「うん」

……まあ、そんなわけで私一人がパズルに挑戦することになったんだけど、それならと言うことで出した条件が、このカフェテリアだった。

「私もう飽きたよ……」

そんなことを言う美佳を無視して手を進める。

「……よし。これでおわりーっ」

最後の文字を記入してシャーペンをテーブルに置く。

そこで思わず出した声に気づいて、辺りを見回した。

店は相変わらずゆったりとした音楽が流れ、ほかの人たちも気にしていないようで、ホッとしながら前に向き直る。

「終わったの？」

そこでは美佳が目を輝かせていた。

私が頷くと、お疲れ〜、と言ってカフェを差し出してくる。

私はそれを受け取って飲んでから、席を立った。

「じゃ、そろそろ行こっか」

「うん」

「お姉ちゃん、ありがとね」

帰り道で機嫌良さそうにそう言う美佳の頭を撫でる。

「良いよ、別に。それに楽しかったしね」

「……そっか」

そんな何気ない会話をしながら、家に向かって歩いていく。
こんな日も良いな、と思ったりした日曜日だった。

(後書き)

一週間後

「お姉ちゃん、また新しいパズルの雑誌見つけてきたんだけど……」

「やらないわよ？」

「最近出来たファミレスのジャンボパフェなんてどう？」

「よし。その話、乗った」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5468h/>

パズル

2010年10月21日08時28分発行